



病児保育室 あんず通信 Vol.36 2018年11月号

あんず通信では、クリニックの感染症流行状況や、季節ごとの情報などを毎月ご案内しています。

【感染症だより】

～感染性胃腸炎について～

例年 10 月から 12 月は感染性胃腸炎の流行期です。胃腸炎の原因はほとんどがウイルスで、抗生物質は効きません。ウイルスの種類によっては重くなることも、軽くなることもあります。また、罹った人の状態によっても、重くなったり、軽くなったりします。

小児、特に乳幼児はまだ抵抗力（免疫力）が弱いので、たびたび胃腸炎にかかります。そして、症状が長引きやすいです。赤ちゃんのお腹の腸は、大人の腸に比べてまだまだ未熟です。そのため、一度胃腸炎に罹ると回復するまでに時間がかかります。長い時は 2 週間以上かかる時もあります。症状は、嘔吐、下痢、腹痛、哺乳不良、食欲不振などです。最も気を付けたいのは、**脱水症**です。どんな胃腸炎でも、嘔吐や下痢がひどくなり、水分摂取が出来ない状態が続くと、体の中の水分が減ってしまい脱水症を起こします。点滴治療が無い時代には、脱水症で亡くなる乳幼児が沢山いましたが、今は違います。経口補水液や点滴治療が普及し、日本国内で脱水症で亡くなることはめったにありません。ただし、脱水症を見逃してしまうことで、入院治療が必要になってしまうことがあります。そうならないために、胃腸炎の時は、吐き気止めなどを上手に使い、経口補水液など少しずつを与えましょう。症状がひどい時には、点滴をします。また、点滴が必要ないレベルでも、食事を控えて経口水分補給のみ行います。水分補給のみで吐かずに半日から 1 日経過したら、少量ずつ食事を開始しましょう。食事は、お粥やうどん、パンなどの炭水化物から始めます。母乳は与えても大丈夫ですが、乳製品やかんぎつ類はひかえましょう。

表：10月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎	139
2	溶連菌	61
3	リンゴ病	11
4	アデノウイルス胃腸炎	7
5	水ぼうそう	6
6	ヘルパンギーナ	5
7	アデノウイルス咽頭炎	4
8	RSウイルス感染	2
9	おたふくかぜ	1
9	百日咳	1

★病児保育室あんずからのお知らせ★

4 月から、**空き状況**を Web で確認出来るようになりました。携帯電話でも同様に**しみずクリニック**の予約ページから確認出来ます。表示が空きになっていても、病気の種類や時間差で入れない場合がありますので、ご注意下さい。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★あんずからのお願い★

予約をキャンセルされる場合、時間外の留守番電話でも構いませんので、必ずご連絡をお願い致します。一人でも多くの方にご利用できるようにご協力をお願い致します。

文責： 清水マリ子



しみず小児科・内科クリニック